

倉敷芸術科学大学における遠隔授業の実態調査報告

高木加奈絵¹⁾・馬場 始三²⁾

1) 倉敷芸術科学大学教育開発センター

2) 倉敷芸術科学大学芸術学部

(2021 年 10 月 1 日 受理)

はじめに

本稿は、今般の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行下で、2020 年度と 2021 年度に本学での面接授業が一時的に不能となった状況下で行った遠隔授業に関して、本学の教育開発センターが遠隔授業の状況を調査するために行った、学生アンケートの調査結果を経年比較することを目的としている。

本学では、学生の学びの機会を確保するため、政府による「新型インフルエンザ等緊急事態宣言」（緊急事態宣言）の対象地域となった場合のみ、遠隔授業に移行すること¹となっており、それ以外の期間は面接授業を基本的な形態としている²。全国的な緊急事態宣言は 2020 年 4 月 16 日から 5 月 21 日であり、岡山県に緊急事態宣言が出されたのは、2021 年 5 月 16 日から 6 月 20 日までと、8 月 2 日から 9 月 12 日までの 3 回であった。そのため本学では、緊急事態宣言下の 2020 年 5 月 7 日から 6 月 3 日までと、2021 年 5 月 18 日から 6 月 20 日までの 2 度³、通常の学期中に遠隔授業に移行した。

こうした状況の中で本学においては、2020 年度と 2021 年度に遠隔授業を行った結果、どのような利点や改善点があったのかについて、全学生を対象とした質問紙調査を行った。本稿は、こうした学生アンケート調査の結果を経年比較することで、本学での遠隔授業の実践が達成できた課題と、今後さらに検討を重ねる必要のある課題を明らかにしていきたい。

なお、本稿はあくまで本学の遠隔授業に関する実態調査の概要を示すものであるため、通常の研究論文のような、先行研究との関係性から研究の意義を出すことは控える。しかしながら、本学での遠隔授業の実態を明らかにし、今後再び遠隔授業へと一時的に移行するような事態となった場合に備えて、教員個々人が留意すべき点を明確にすることができることや、組織として何を支援すべきなのかという議論を喚起することができるという点で、本稿には意義があろう。

1. 調査の概要

2020 年度、2021 年度の調査はいずれも、Google Forms を使用して行われた。2020 年度調査は、2020 年 9 月 24 日から 9 月 30 日の期間に実施され、学部から 61%（N=781）、大学院から 17%（N=6）の回答を得た。2021 年度調査は、2021 年 6 月 21 日から 6 月 30 日の期間に実施さ

れ、学部から 53% (N=704)、大学院から 19% (N=8) の回答を得た。

本調査の質問項目は、以下の表 1 に示した通りである。なお、2021 年度調査の際には、学生のアンケート疲れを考慮し、できるだけ簡素な質問項目にすることによって、回答率を上げる努力をした。

表 1 遠隔授業に関する学生アンケート 質問項目

質 問	選 択 肢	備 考
Q 1. あなたの所属について教えてください。		
Q 2. あなたの学年を教えてください。		
Q 3. 遠隔授業を受けてみて、全体としてのあなたの満足度を教えてください。	大変満足している	
	満足している	
	どちらともいえない	
	あまり満足していない	
	満足していない	
Q 4. 遠隔授業全体を通しての授業内容の理解度を教えてください。	授業内容をよく理解できている	
	授業内容を理解できている	
	どちらともいえない	
	授業内容をあまり理解できていない	
	授業内容を理解できていない	
Q 5. 2020 年度前期の遠隔授業の受講時に主に利用した、通信端末を教えてください。	パソコン	
	スマートフォン	
	タブレット	
	その他の通信端末	
	通信端末を持っていない	
Q 6. 2020 年度前期の遠隔授業の受講時に主に利用した、インターネット接続環境を教えてください。	住まいの固定回線（光 / ADSL / CATV 回線など）	
	住まいの固定回線（国外の VPN 接続）	
	モバイル Wi-Fi ルーター	
	スマートフォンなどのデータ通信（通信量制限なし）	
	スマートフォンなどのデータ通信（通信量制限あり）	
	通信環境がない	
Q 7. 2020 年度前期の遠隔授業の受講時の通信環境は全体的にどうでしたか？	大変良好	
	良好	
	時々不安定	
	不安定	
	全く利用できなかった	
Q 8. 2020 年度後期に遠隔授業が実施された場合、主に利用する予定だった / 利用した通信端末を教えてください。	パソコン	2021 年度は削除
	スマートフォン	
	タブレット	
	その他の通信端末	
	通信端末を持っていない	
Q 9. 2020 年度後期に遠隔授業が実施された場合、主に利用する予定だった / 利用したインターネット接続環境を教えてください。	住まいの固定回線（光 / ADSL / CATV 回線など）	2021 年度は削除
	住まいの固定回線（国外の VPN 接続）	

	モバイル Wi-Fi ルーター	
	スマートフォンなどのデータ通信（通信量制限なし）	
	スマートフォンなどのデータ通信（通信量制限あり）	
	通信環境がない	
Q 10. 2020 年度前期の遠隔授業に関する大学からの連絡は、学生ポータルを通して案内しました。学生ポータルを使った遠隔授業の説明について、情報量やわかりやすさに関する満足度を教えてください。	大変満足している	
	満足している	
	どちらともいえない	
	あまり満足していない	
	満足していない	
Q 11. 2020 年度前期の遠隔授業では、教員からレポートや課題が提示されましたか？	すべての授業で提示された	
	多くの授業で提示された	
	あまり提示されなかった	
	まったく提示されなかった	
Q 12. 2020 年度前期の遠隔授業では、提出したレポートや課題に対する教員から何らかのフィードバックがありましたか？	すべての授業でフィードバックがあった	
	多くの授業でフィードバックがあった	
	フィードバックはあまりなかった	
	フィードバックはまったくなかった	
Q 13. 2020 年度前期に、繰り返し何度も同じ授業をオンラインで受けることができる「オンデマンド型」の遠隔授業を受けた方にお聞きます。「オンデマンド型」の授業で提示される教材のうち、学習しやすいと感じたものはどれですか？（複数回答）	文書教材（主に PDF）	2021 年度は削除
	スライド資料（音声なし）	
	動画（主に YouTube 動画）	
	ネット上の Web サービス	
	その他の資料教材	
	どれも学習しにくい	
Q 14. 2020 年度前期に、「オンデマンド型」の遠隔授業を受けた方にお聞きます。この授業形態で良かったことはなんですか？（複数回答）	グループワークをしなくてもよいので楽な気持ちで受けられる	2021 年度は削除
	自分のペースで学習できる	
	自宅で学習できる	
	教室より集中できる	
	教材がわかりやすい	
	復習が何度もできる	
	教員に質問がしやすい	
	復習を繰り返すことで知識やスキルが高まる	
	通信量が多くない	
	特になし	
Q 15. 2020 年度前期に、「オンデマンド型」の遠隔授業を受けた方にお聞きます。この授業形態で困ったことはなんですか？（複数回答）	長時間の通信端末の使用で疲れる	2021 年度は削除
	友人と一緒に学べず、孤立感を感じる	
	学習ペースがつかみにくい	
	授業に取り組む時間が十分に確保できない	
	授業の教材がわかりにくい	
	課題が多い	
	通信端末の扱いに慣れていない	
	Google Classroom の使い方がわからない	
	集中力が続かない	
	先生に質問がしにくい	
	授業に関する連絡が適切に来ない	

Q 16. 2020 年度前期に、リアルタイムに授業を受けるライブ型の遠隔授業を受けた方にお聞きします。ライブ型では他者とのコミュニケーションのためにどのようなツールを使用しましたか？（複数回答）	Zoom	2021 年度は削除
	Google Meet	
	Microsoft Teams	
	LINE	
	Dropbox	
	Slack	
	その他	
Q 17. 2020 年度前期に、ライブ型の遠隔授業を受けた方にお聞きします。この授業形態で良かったことはなんですか？（複数回答）	教員と学生が顔を合わせて授業ができる	2021 年度は削除
	自宅で学習できる	
	教室より集中できる	
	教材がわかりやすい	
	教員に質問がしやすい	
	リアルタイムのため緊張感がある	
	リアルタイムに学ぶことで知識やスキルが高まる	
	学生同士で意見交換できる	
	特になし	
Q 18. 2020 年度前期に、ライブ型の遠隔授業を受けた方にお聞きします。この授業形態で困ったことはなんですか？（複数回答）	長時間の通信端末の使用で疲れる	2021 年度は削除
	学習ペースがつかみにくい	
	復習がオンデマンド型よりもやりにくい	
	授業の教材がわかりにくい	
	課題が多い	
	通信端末の扱いに慣れていない	
	Google Classroom の使い方がわからない	
	集中力が続かない	
	先生に質問がしにくい	
	授業に関する連絡が適切にこない	
	先生の声が聞き取りづらい	
Q 19. 2020 年度前期の遠隔授業で授業内容が進むペースはどうでしたか？	早い	
	やや早い	
	適切だった	
	やや遅い	
	遅い	
Q 20. 2020 年度前期の遠隔授業で出された課題の量はどうか？	かなり多い	
	多い	
	適切だ	
	少ない	
	かなり少ない	
Q 21. 遠隔授業について不安に思う点があれば、ご自由にご記入ください（自由記述）。		2021 年度は削除
Q 22. 2020 年度前期の遠隔授業についてよかったと思う点があれば、ご自由にご記入ください（自由記述）。		
Q 23. 2020 年度前期の遠隔授業を受けてみた結果、今後改善してほしいと思う点があれば、ご提案ください（自由記述）。		

2. 本学の遠隔授業に関する学生アンケートの経年比較

ここでは、2020 年度調査と 2021 年度調査の単一回答の項目について、経年比較を行う。このことを通して、本学の遠隔授業に対する学生の受け止めとその変化を、数量的に示す。

(1) 遠隔授業に対する全体としての満足度の経年変化

「遠隔授業を受けてみて、全体としてのあなたの満足度を教えてください」という質問内容に関して、2020 年度調査と 2021 年度調査の回答の割合を比較したものが、図 1 である。

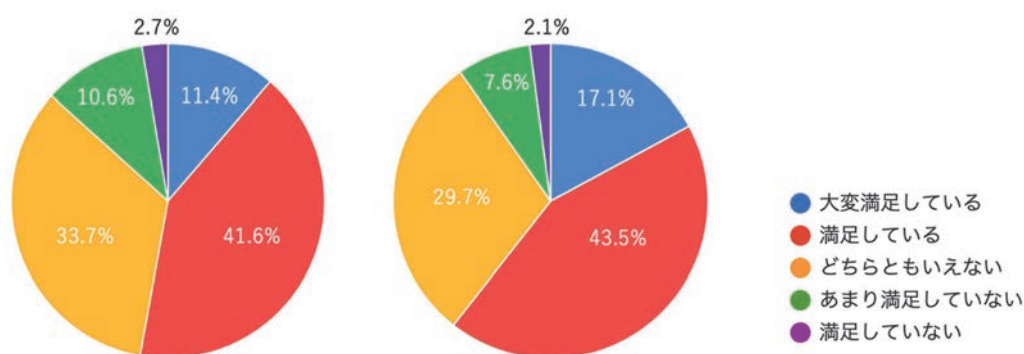


図 1. 遠隔授業に対する全体的な満足度の比較
(全学科平均。左図：2020 年度、右図：2021 年度)

2020 年度では、遠隔授業について全体として満足している学生が 53%（「大変満足している」＋「満足している」）、どちらともいえない学生は 33.7%、満足していない学生は 13.3%（「あまり満足していない」＋「満足していない」）であった（図 1）。一方、2021 年度では、遠隔授業について全体として満足している学生が 60.6%（「大変満足している」＋「満足している」）で、どちらともいえない学生は 29.7%、満足していない学生は 9.7%（「あまり満足していない」＋「満足していない」）であった（図 1）。

遠隔授業全体として満足しているかどうかの経年変化を調べた結果、全体として満足していると回答した割合が 7.6 ポイント上昇する中で、あまり満足していないという回答は 3.6 ポイント減少している。そのため、全体としては遠隔授業に対して、より満足する方向にシフトしたといえよう。

(2) 遠隔授業全体を通しての授業内容の理解度の経年変化

「遠隔授業全体を通しての授業内容の理解度を教えてください」という質問内容について、2020 年度調査と 2021 年度調査の回答の割合を比較したものが、図 2 である。

2020 年度の授業内容の理解度は、授業内容を理解できている学生が 62.9%（「よく理解できている」＋「理解できている」）、どちらともいえない学生は 27.3%、理解できていない学生が 9.8%（「授業内容をあまり理解できていない」＋「授業内容を理解できていない」）であった。全体的

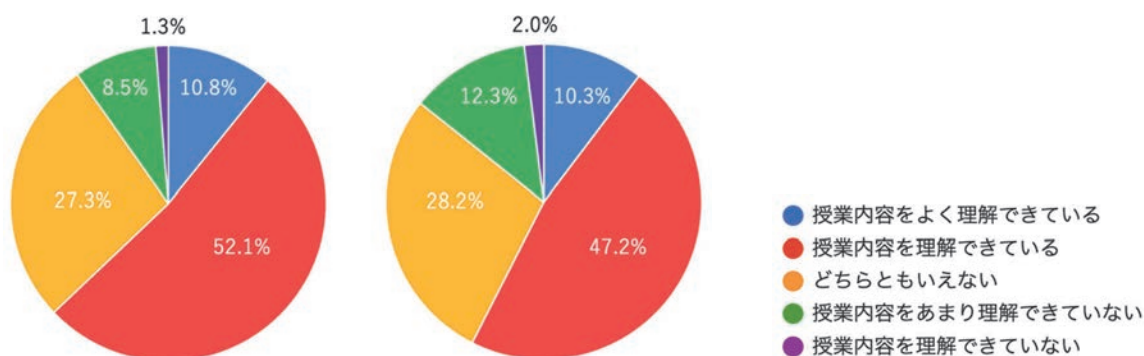


図2. 遠隔授業全体を通しての授業内容の理解度の比較
(全学科平均。左図：2020年度、右図：2021年度)

な傾向としておおむね理解できているという結果といえる（図2）。

2021年度の授業内容の理解度は、授業内容を理解できている学生が57.5%（「よく理解できている」＋「理解できている」）、どちらともいえない学生は28.2%、理解できていない学生が14.3%（「授業内容をあまり理解できていない」＋「授業内容を理解できていない」）という結果であった（図2）。

遠隔授業全体を通しての授業内容の理解度の経年変化を調べた結果、理解できているという回答が5.4ポイント減少した一方で、理解できていないという回答が4.5ポイント増えていた。つまり、授業内容を理解できていないという回答が前年度より少し増えた結果となっている。

2021年度の遠隔授業期間は学期の途中で約1カ月行われたため、2020年度のように学期のはじまりで行うような基礎的な内容ではなく、やや発展的な内容を取り扱わなければならない時期であった。そのため、2020年度よりも理解度がやや下がるという結果になったのかもしれない。

(3) 遠隔授業の受講時に主に利用した通信端末の経年変化

「遠隔授業の受講時に主に利用した、通信端末を教えてください」という質問内容に関して、2020年度調査と2021年度調査の回答の割合を比較したものが、図3である。

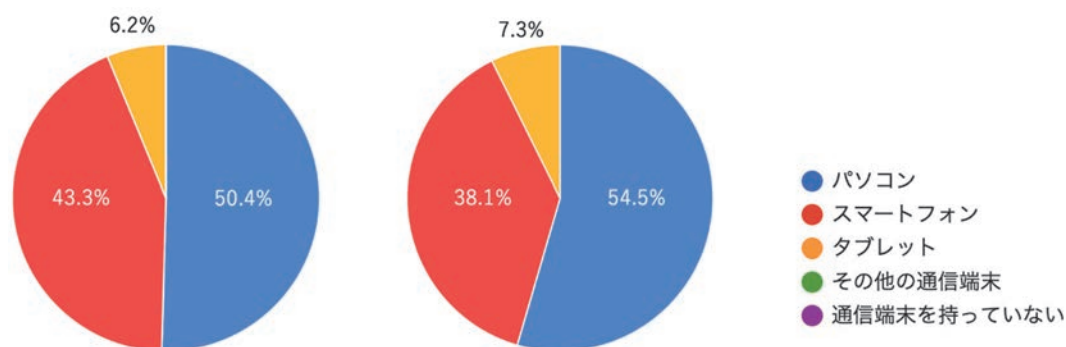


図3. 遠隔授業の受講時に主に利用した通信端末の比較
(全学科平均。左図：2020年度、右図：2021年度)

遠隔授業の受講時に主に利用した通信端末を比較したところ、1年経過してパソコンを主に利用して受講したという回答が4.1ポイント増えていた。2020年度前期のアンケートで5.3%の学生が次回の遠隔授業に向けてパソコンの準備を進めたいという回答があったことも考慮すると、遠隔授業の受講経験から遠隔授業時に視聴画面の広さやツールの使い勝手を重視してパソコンを利用する学生が増えたためだと考えられる（図3）。

（4）遠隔授業の受講時に主に利用したネットワークの接続環境と通信品質の比較

「遠隔授業の受講時に主に利用した、インターネット接続環境を教えてください」という質問内容について、2020年度調査と2021年度調査の回答の割合を比較したものが、図4である。

また、この設問に付随して、「遠隔授業の受講時の通信環境は全体的にどうでしたか」という設問を設けた。この設問の2020年度調査と2021年度調査の回答の割合を比較したものが、図5である。

遠隔授業の受講時に主に利用したネットワークの接続環境と全体的な通信の安定度を比較したところ、固定回線やモバイルWi-Fiルーター、スマートフォンなどのデータ通信の利用比率はほぼ変化が見られなかったものの、通信回線の安定度については良好だった（「大変良好」＋「良好」）。

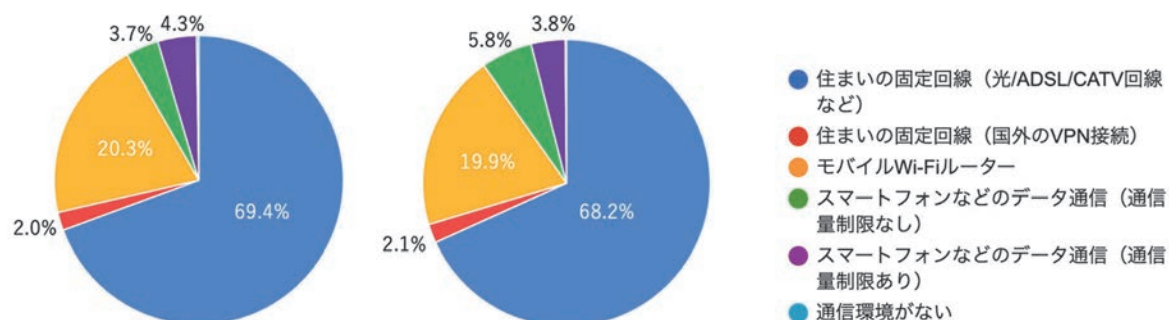


図4. 遠隔授業の受講時に主に利用したネットワークの接続環境の比較
（全学科平均。左図：2020年度、右図：2021年度）

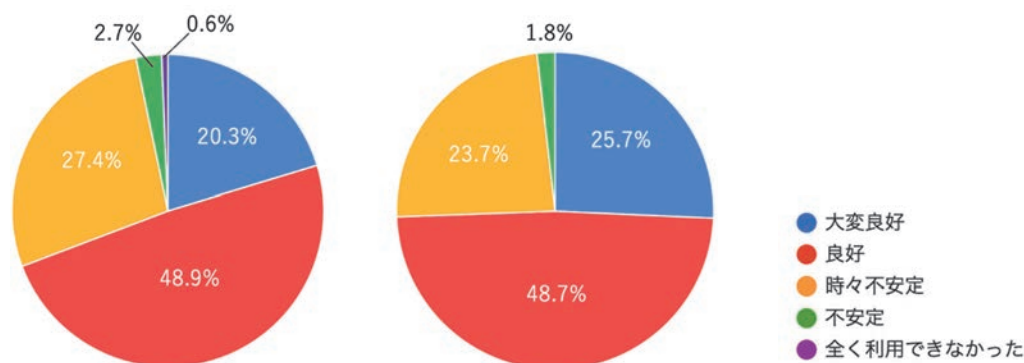


図5. 遠隔授業の受講時の通信環境の全体的な安定度の比較
（全学科平均。左図：2020年度、右図：2021年度）

好)」という回答が5.2ポイント上昇した。その一方で、両年度ともに4分の1程度の回答者が、時々通信回線が不安定になったと回答している点に引き続き留意しなければならないだろう。

さらに、スマートフォンなどのデータ通信（通信量制限あり）や、国外のVPN接続を利用して遠隔授業を受講する学生が一定数いることを前提に、通信コストや通信遅延、通信品質に配慮しながら遠隔授業時の資料のデータサイズなどに引き続き配慮する必要がある（図4）。

（5）遠隔授業で教員からレポートや課題が提示されたかどうかの比較

「遠隔授業では、教員からレポートや課題が提示されましたか」という質問内容について、2020年度調査と2021年度調査の回答の割合を比較したものが、図6である。

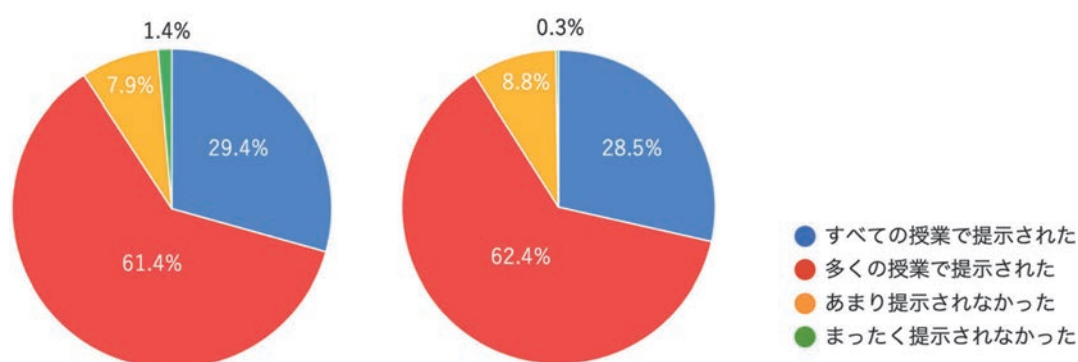


図6. 遠隔授業で教員からレポートや課題が提示されたかどうかの比較
(全学科平均。左図：2020年度、右図：2021年度)

遠隔授業で教員からレポートや課題が提示されたかどうかを比較したところ、すべての授業または多くの授業で提示されたという回答が2020年度で90.8%、2021年度で90.9%とほぼ変化が見られず、授業全体で9割の遠隔授業でレポートや課題が提示されたことが見て取れる。

一方で、まったく提示されなかったと回答した件数が1.4%（11件）から0.3%（2件）へと減少している。そのため、遠隔授業ではレポートや課題を適切な量で学生に提示するように、授業の担当教員へ引き続き周知をはかっていく必要がある（図6）。

（6）教員から何らかのフィードバックがあったかどうかの比較

「遠隔授業では、提出したレポートや課題に対する教員から何らかのフィードバックがありましたか」という質問内容について、2020年度調査と2021年度調査の回答の割合を比較したものが、図7である。

遠隔授業で提出したレポートや課題に対する教員からのフィードバックについて比較した結果、すべてまたは多くの授業でフィードバックがあったという回答は、2020年度で71.7%、2021年度は67.3%となり、フィードバックが「あまりなかった」、または「まったくなかった」という回答が4.4ポイント増えていた（図7）。

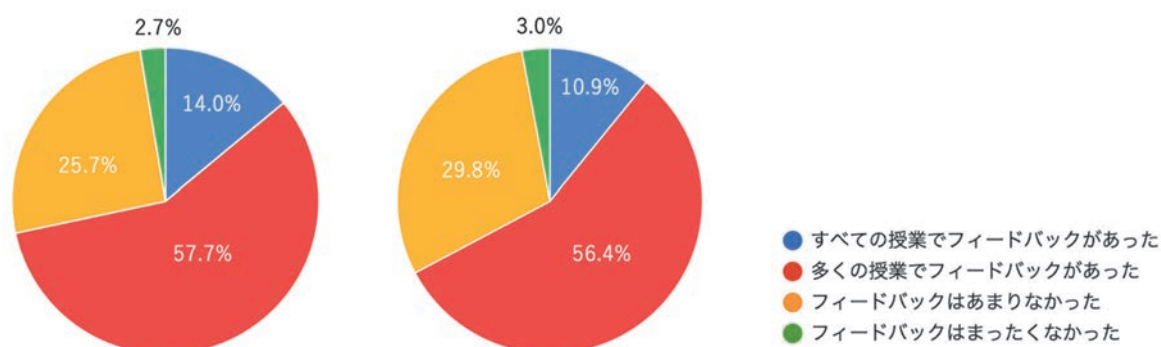


図7. 遠隔授業で提出したレポートや課題に対する教員からのフィードバックの比較
(全学科平均。左図：2020 年度、右図：2021 年度)

フィードバックがなされていないと、学生としては課題が提出できているのかどうかや、自分の回答の方向性があるのかどうかを不安に感じるであろう。フィードバックを通して、自分の現在足りていない部分を学生自身が振り返ることは、学習にとって重要な要素であるため、フィードバックを促進していくような手立てを講じる必要があろう。

(7) 遠隔授業の内容が進むペースに関する比較

「遠隔授業で授業内容が進むペースはどうでしたか」という質問内容について、2020 年度調査と 2021 年度調査の回答の割合を比較したものが、図 8 である。

2020 年度の授業の進むペースは、早いと感じている学生が 28.4% (「早い」 + 「やや早い」)、適切だったと感じている学生は 67.0%、遅いと感じている学生が 4.5% (「やや遅い」 + 「遅い」) であった。全体的な傾向としては、授業のペースは適切であったと感じている学生が大多数であった (図 8)。

2021 年度の授業の進むペースは、早いと感じている学生が 35.0% (「早い」 + 「やや早い」)、適切だったと感じている学生は 63.0%、遅いと感じている学生が 2.0% (「やや遅い」 + 「遅い」)

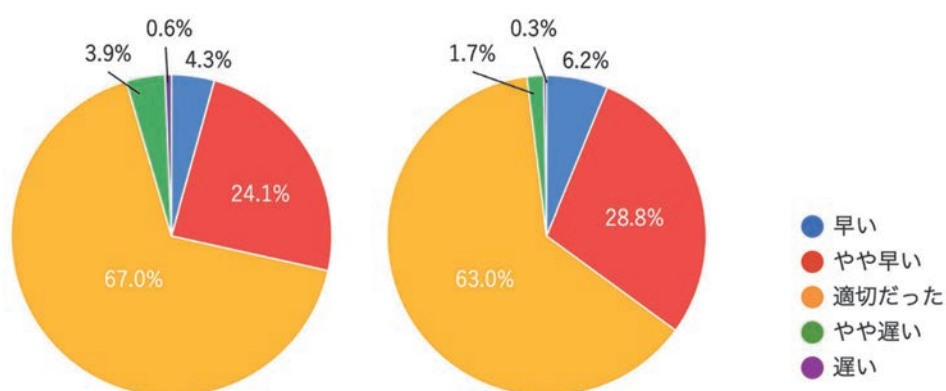


図8. 遠隔授業の授業進行ペースの比較
(全学科平均。左図：2020 年度、右図：2021 年度)

であった。2020 年度同様、全体的な傾向としては、授業のペースは適切であったと感じている学生が大多数であったといえる（図 8）。

ただし、授業のペースに関する経年変化を調べた結果、授業のペースが早いと回答する学生が、6.6 ポイント増えている点には留意が必要であろう。

（8）遠隔授業で出された課題の量に関する比較

「遠隔授業で出された課題の量はどうでしたか」という質問内容について、2020 年度調査と 2021 年度調査の回答の割合を比較したものが、図 9 である。

2020 年度に課題の量が多いと感じていた学生は、48.6%（「かなり多い」＋「多い」）、適切だと感じている学生は 48.7%、少ないと感じている学生が 2.8%（「少ない」＋「やや少ない」）であった。2020 年度の全体の傾向としては、課題の量が多いと感じている学生と、適切だと感じている学生の割合がほぼ同じであったことが見て取れる（図 9）。

2021 年度に課題の量が多いと感じていた学生は、48.4%（「かなり多い」＋「多い」）、適切だと感じている学生は 49.0%、少ないと感じている学生は 2.5%であった。2021 年度も 2020 年度同様、課題の量が多いと感じている学生と適切だと感じている学生の割合はほぼ同じであったことがわかる（図 9）。

この経年比較を通して、課題の量が多いと感じている学生の割合が、依然として約半数となっている点には注意が必要であろう。「2.（6）」の教員によるフィードバックが、2021 年度にはなされていなかったと感じている学生のポイントが増えていることと考え合わせると、学生が処理しきれないほどの課題を出した結果、教員もフィードバックができない程であったという可能性が示唆されるためである。

学生が勉学に励むのは大学として当然の姿ではある。しかし、遠隔授業自体のやり方を工夫することによって、教育効果を上げるような工夫をしながら、過度に学生に負担をかけないようなやり方を考える必要があろう。

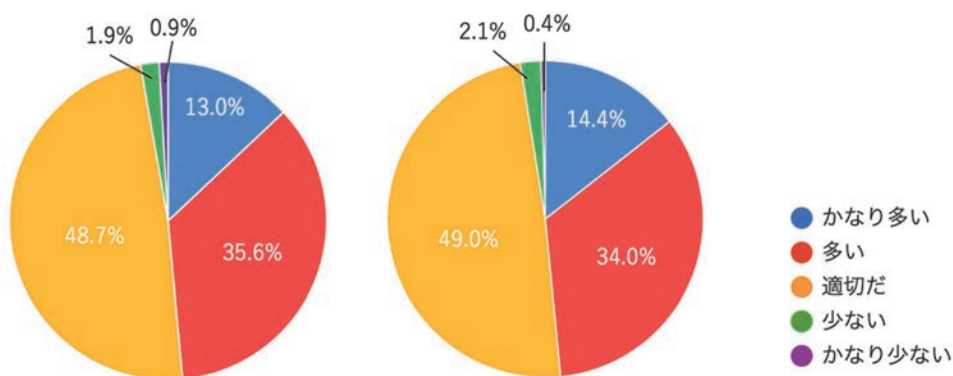


図 9. 遠隔授業で出された課題の量の比較
(全学科平均。左図：2020 年度、右図：2021 年度)

3. 自由記述欄の分析

自由記述欄で、2020 年度と 2021 年度共通で行った設問は、「前期の遠隔授業についてよかったと思う点があれば、ご自由にご記入ください」という設問と、「前期の遠隔授業を受けてみた結果、今後改善してほしいと思う点があれば、ご提案ください」という設問の 2 つである。そのため本稿では、この 2 つの自由記述に絞って考察を行う。

なお、自由記述欄の分析にあたっては、一人の意見の中でも 2 つや 3 つの要素が含まれている場合が多いため、単純集計結果のみを示し、割合は示さないものとした。

(1) 2020 年度調査の自由記述欄の傾向

2020 年度調査では、よかったと思う点に関する記述は 185 件⁴あった。挙げられていたよかった点は、主として 3 つに分類できる。一つ目は、一か所に集まらなくてよいため、コロナ対策ができる (N=5)、二つ目は、資料が Google Classroom に載っていることがよい (N=38)、三つ目は自分のペースで学習を行うことができる、学習環境がよい (N=82) というものであった。

また、2020 年度調査で改善点に関する記述は、151 件⁵であり、そのうち授業に関わるものは、105 件であった。授業に関する改善点は、以下の表 2 のように 12 項目に分類できる。

表 2 2020 年度調査 授業に関する改善点⁶

No.	内容 (回答数)	回 答 例
1	ツール (26)	・ 授業ごとに使用ツールが異なるため、統一してほしい。 ・ 先生方が使い方を理解しておいてほしい。等
2	授業方法自体 (23)	・ 動画を活用する等、工夫をしてほしい。 ・ ライブ型の授業は録画をしてほしい。等
3	課題の量 (21)	・ 課題の量が多い。
4	連絡 (10)	・ 授業開始前に、Zoom の PW を連絡しておいてほしい。 ・ 何のツールを使ってその日の授業をするのか、連絡しておいてほしい。等
5	授業資料の保存 (10)	・ 復習のために、授業資料を Google Classroom に保存しておいてほしい。 ・ ネット環境が悪くて聞き取れなかった時のために、授業資料を保存しておいてほしい。等
6	機材 (9)	・ 教員のマイクの調子が悪く、聞き取れないことがある。等
7	フィードバック (6)	・ 課題に対するフィードバックがない。等
8	ネット環境 (4)	・ ネット環境が悪く、受講できない場合があった。等
9	授業資料の事前配布 (4)	・ 手元に資料がない状態で授業を受けざるを得なかったため、授業資料を事前配布してほしい。等
10	双方向性 (3)	・ 質問やディスカッションを積極的にしてほしい。 ・ 顔出しが嫌なので、双方向性はいらない。等
11	出席確認の方法 (2)	・ 出席確認の時間が短すぎる。 ・ 出席確認時にネット環境がたまたま悪かっただけなのに、欠席扱いとなった。等
12	実習授業 (2)	・ 実習を伴う授業では、オンライン授業では理解しづらい。

2020 年度は教員側も準備期間が少なく、遠隔授業に関するノウハウも未だ蓄積されていなかったため、不慣れな状況に戸惑った教員や学生が多かったのだろう。授業で使用するツールや授業

方法の工夫を求める回答（「授業方法自体」、「課題の量」）が多く寄せられる結果となった。また、よかった点と表裏の関係にあるが、授業資料を Google Classroom に保存してほしいという意見も寄せられていた。

また、授業以外の改善点としては、遠隔授業でも学費は変わらないのかといった要望（N=4）、遠隔授業にかかる費用への補助金制度の創設といった要望（N=1）が挙げられていた。2020 年度調査で改善してほしいという内容は、他大学の遠隔授業においてもしばしば指摘されている問題であり、本学固有の改善点は見られなかった。

（2）2021 年度調査の自由記述欄の傾向

2021 年度調査では、よかったと思う点に関する記述は 196 件⁷あった。挙げられていたよかった点は、主として 4 つに分類できる。一つ目は、一か所に集まらなくてよいため、コロナ対策ができる（N=12）、二つ目は、資料が Google Classroom に載っていることがよい（N=29）、三つ目は自分のペースで学習を行うことができる、学習環境がよい（N=73）、四つ目は授業に工夫がみられてわかりやすかった（N=29）、というものであった。

2020 年度前期の遠隔授業での経験を生かすとともに、遠隔授業に関するノウハウが蓄積されてきたことや、FD 研修での遠隔授業の事例報告等の成果が出たのだろう。2020 年度前期の自由回答には見られなかった「授業に工夫がみられてわかりやすかった」という回答が 29 件寄せられていた。

また、この分類にはあてはまらなかったが、「通信環境に不備がある人は、許可を得て大学で^{原文ママ}受けれることは非常に良いと感じました」という回答も 1 件、寄せられていた。本学では 2021 年度の遠隔授業の際には、通信環境が不安な学生には許可を得れば大学内の施設を使用できる状態にしていたが、こうした学生支援が重要であることも、改めて裏付けられたといえよう。

2021 年度調査では、改善点に関する記述は 179 件⁸あり、そのうち授業に関わるものは、120 件であった。授業に関する改善点は、2020 年度調査同様の分類方法で分類した所、2021 年度調査では「出席確認の方法」に関する項目に関する記述はなかったため、11 項目に分類した。以下の表 3 は、具体的な項目と回答例を示したものである。

表 3 2021 年度調査 授業に関する改善点⁹

No.	内容（回答数）	回 答 例
1	授業方法自体（32）	<ul style="list-style-type: none"> ・「声聞こえてたら反応してください」と最初によく確認されるが、声だけで伝えてたら音が聞こえてない人にはそもそも何の時間なのか全く分からないので、チャットでも書いておいてほしい。 ・ずっとキーボードをうち続ける授業だととても眠くて集中できなかった。かといってしゃべり続けるだけでも眠かった。 ・オンラインをする授業としない授業があり、また来年に回すようになるのはとても迷惑。しかも、オンラインを開講できない理由が、パソコンなどを使えないと聞いた。等

2	課題の量 (22)	<ul style="list-style-type: none"> ・ズームや動画を使わない授業があって課題などが増えた。ズームや動画を多くして課題を増やさないでほしい。 ・課題が多過ぎたり期限が近い、まるで他の授業があることを考えてないかのように。等
3	授業資料の保存 (20)	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業が終わっても Classroom が資料を載せてあると見やすいので、Classroom をもっと活用してほしい。
4	連絡 (11)	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングの URL が見つからず講義に遅れてしまったことがあったため、直前に送るか分かりやすくしてほしい。 ・教科によっては Zoom のパスワード等がメールで届くのが遅く、時間になっても授業が始まらないなど、不安になる部分があった。等
5	ネット環境 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・教員等のネット環境の改善。等
6	ツール (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホだとレポート課題や、先生から提示された課題に書き込むのが難しい。 ・今後もう遠隔授業になる場合は Zoom か Google Meet を使って授業を行って欲しいです。等
7	機材 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンがないとできない課題ができずに、学校に行かないといけなかったこと。 ・動画でのくちゃくちゃ音が不快である。等
8	双方向性 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・教員とのやりとりや生徒同士でのディスカッションがやりにくい。 ・生徒の画面を映さないようにしてほしい。カメラオフが良いです。等
9	授業資料の事前配布 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業プリントを遠隔授業前に配布してほしいです。 ・毎週資料が提出される講義もあったので資料の印刷が大変だった。5号館に入るには申請が必要なので数週間分の資料を一気に Classroom に上げて貰えると嬉しいと思った。
10	フィードバック (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・私自身は通信環境などのトラブルも無かったけど、学生によっては授業に入れず困っている人もいた。他の学生が、授業に入れない人がいると伝えても、対応してくれない先生がいた。先生によってもかなり対応に差があった。等
11	実習授業 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの授業は専門科目がよくできません。絵はやはり学校のほうがいいです。学費はまだ高いです。等

2020 年度調査と 2021 年度調査では、項目自体に変化はほぼないが、学生の自由記述欄の回答内容が、2021 年度の方がより具体的に問題点を指摘している部分も散見された。

例えば、回答数が大幅に増えた「授業方法自体」では、チャットの活用の提案というちょっとした工夫がほしいという具体的な意見が寄せられている。また、キーボードを打ちつづける授業や教員が一方的に話し続ける授業の困難さ、教員のパソコンスキルが低いことにより遠隔授業を行えない事例に対して、厳しい意見が寄せられていた。

このことは、多くの教員が 2020 年度の遠隔授業を受けて授業改善を行ったため、授業方法に工夫が見られない、もしくは授業に抑揚がないと学生にみなされてしまった教員に対して、学生が厳しい目を向けたということを示唆している。しかしながら、こうした厳しい目を向けられた教員についても、遠隔授業を行わなかったという例を除いては、何らかの授業改善の試みを講じているのではないだろうか。

つまり、今回はたまたまうまく受講者に伝わらなかっただけの可能性もありえるわけである。こうした点については、同じような方法を取っていたとしても、ちょっとした工夫の差で厳しい評価につながってしまった可能性があるため、学生から“うまく行っている”とみなされている授業を聞き出し、そうした教員の実践を FD 研修等で共有することで、改善可能なものであると

考えられる。

また、課題の量については2020年度調査同様、比較的自由回答欄への記述が多い項目であった。記述内容は2020年度と2021年度で大きく変化はない。そのため、できる限り課題の期限を長めに取ることや、授業を行わない代わりに課題だけを出すというようなやり方については、引き続き改善の必要性があるだろう。ただし、本学では教員に対する遠隔授業に関するバックアップ体制があるわけではないため、なかなか教員個人では改善のしようがない部分はあるだろう。できるだけ多くの教員の遠隔授業に関する実践を、FD研修を通して紹介していくことで、教員相互に授業に関する相談がしやすい状況を整える必要があろう。

さらに、2020年度の調査から大きく変わったのは、「ツール」に関しての記述が26件から8件に、大幅に減ったことであろう。これは遠隔授業に関して、教員側が様々に準備をしてきたことの成果が出たということであろう。2020年度調査では、ツールに関してどうしていいかわからないという不安や、教員がツールに慣れず、手間取っていることに対してのいらだちが見られたが、2021年度調査ではこうした回答は大幅に減少していた。

おわりに

本稿の目的は、2020年度と2021年度の遠隔授業に関する学生アンケート調査の経年比較を通して、本学での遠隔授業の実践が達成できた課題と、今後、さらに検討を重ねる必要のある課題を明らかにすることであった。以下では、単一回答式の経年比較の概要と、自由回答欄の分析結果の概要を示したのちに、本稿の課題である本学の達成できた課題と、今後、さらに検討を重ねる必要のある課題を明らかにしていきたい。

単一回答式の経年比較の結果、遠隔授業に対する満足度は微増していたが、学生の理解度はややポイントが下がっていた。また、教員からレポートや課題が提示されたかについては、ほぼ変化がなく、90%以上がレポートや課題を課していたことがわかった。しかし、こうした課題やレポートに対するフィードバックは、昨年度よりも行われていないと認識している学生の割合が増えていた。また、2020年度、2021年度共に、課題の量が多いと感じている学生が約半数いることにも注意が必要である。

では、学生の遠隔授業に対する準備状況はどうなっているのか。遠隔授業の際に用いた通信端末の項目では、昨年度と比べてパソコンを使用したという学生が微増していた。ネットワーク接続環境には大きな変化は見られなかったものの、通信回線の安定度については、良好だったと回答する学生が5.2ポイント上昇していた。

こうした結果からは、以下のようなことが言える。すなわち、学生側の遠隔授業の準備状況は、個々人の努力で整えてもらえたことにより、昨年度よりも学習環境が向上したため、遠隔授業に関する満足度が相対的に上昇した可能性があるということである。しかしながら、教員側のフィードバックの状況があまり芳しくないという状況にある。例えば、Google Classroom を活

用しながら、学生にわかりやすい形で課題を提示し、できるだけ速やかに、教員側がフィードバックを行うことのできるような方法を学内のFD研修等で行う必要性があろう。

自由記述欄の分析からは、2021年度の遠隔授業に関するよかった点として、授業に工夫がみられてわかりやすかったという回答が寄せられていた点が特徴的である。その裏返しではあるが、2021年度調査の際に改善点として挙げられた「授業方法自体」に関する自由記述では、授業方法に工夫が見られない授業や、授業に抑揚がないとみなされた授業に対しては、厳しいコメントが寄せられていた。

さらに、今年度は通信環境のない学生や、通信環境に不安のある学生は、学内の施設を開放していたが、この点については、肯定的に評価するコメントがある一方で、手続きが煩雑すぎるという意見も寄せられていた。緊急事態宣言下での移動や入構を伴うため、入構手続きをある程度しっかりと行う必要があるが、学生にその旨をアナウンスすることが不十分であった可能性もある。

以上の分析から、本学の遠隔授業の実践は、学生側の遠隔授業に対する準備体制と、教員側の遠隔授業の改善の両方がある程度は達成できていたとみることができよう。しかし、遠隔授業の実践をどう行っているかわからない教員に対するバックアップ体制や、お互いの授業実践を共有しあう場がうまく作り出せなかったため、遠隔授業実践が、個々の教員の努力に任せきりになってしまっていたという点が、課題として残されていることが明らかとなった。

こうした事実をもとに考えると、今後は遠隔授業だけではなく、授業改善やICT活用等を推進・開発して行くような研修プログラム等の制度構築をする必要があろう。こういった研修プログラム等の制度構築を目指すべきなのかという点については、今後の課題としたい。

付記：本稿は倉敷芸術科学大学倫理審査委員会の承認を受けたものである（受付番号 21-12）。

註

- 1 遠隔授業の要件については、大学設置基準第25条第2項に「大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる」と規定されているが、同法令第32条第五項において、「前四項又は第四十二条の十二の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第二十五条第二項の授業の方法により修得する単位数は六十単位を超えないものとする」とも定められている。つまり、すべての授業を遠隔で行う場合は、60単位を超えないものとして上限が設定されている。

ただし、令和3年4月2日付文部科学省高等教育長からの周知（3文科高等第9号）によれば、「面接授業の授業科目の一部として、いわゆる同時性又は即応性を持つ双方向性（対話性）を有し、面接授業に相当する教育効果を有すると認められる遠隔授業を実施する授業時数が半数を超えない範囲で行われる授業科目については、面接授業の授業科目として取り扱い、上記上限の算定に含める必要はないこと」とも記されている。本学の遠隔授業の実践は、2020年度も2021年度も一時的に遠隔授業に移行したため、文部科学省の基準に照らせば、面接授業として分類できる。しかし、一時的な遠隔授業の実践とはいえ、遠隔授業の実践がこういった効果を上げていたのかを検討することは、今後の大学教育の可能性を探るうえで示唆に富む、重要な課題であろう。

- 2 面接授業に戻った後も、県外に滞在する教員と非常勤講師の授業や、海外で入国許可を待つ留学生向けの授業として、遠隔授業が実施される場合もあった。また現時点でも、海外で入国許可を待つ留学生がいることから、面接授業と合わせて一部授業で引き続き実施されている場合もある。

- 3 2021年8月2日から9月12日までの期間に実施される予定であった夏季休業中の集中講義は、遠隔授業で行うか、時期をずらすという措置を行った。
- 4 「特になし」などの記述を除く回答数は、157件であった。
- 5 「特になし」などの記述を除く回答数は、114件であった。
- 6 「回答例」は、個人情報が特定できないように加工した部分があるが、基本的には学生の記述をそのまま掲載した。
- 7 「特になし」などの記述を除く回答数は、152件であった。
- 8 「特になし」などの記述を除く回答数は、118件であった。
- 9 註7と同じ。また、学生の回答は、回答内容の趣旨を損なわない程度に、誤字を修正するとともに、個人が特定できないような形とした。

Report on the fact-finding survey of remote class at Kurashiki University of Science and the Arts.

Kanae TAKAGI¹⁾, Tomomitsu BABA²⁾

1) Center of Educational development, 2) College of the Arts

Kurashiki University of Science and the Arts

2640 Nishinoura, Tsurajima-cho, Kurashiki shi, Okayama 712-8505, Japan

(Received October 1, 2021)

Owing to the impact of COVID-19, most universities were compelled to take remote classes in 2020 and 2021, at least temporarily. The purpose of this study was to understand and compare students' responses to remote classes held in 2020 and 2021 at Kurashiki University of Science and the Arts through a questionnaire survey. The questionnaire was administered using Google Forms for all students. The response rate from undergraduate students in 2020 was 61% and in 2021 was 53%.

Results of the study indicated that of aging comparison, satisfaction of remote classes increased slightly, but student's comprehension was slightly lower in 2021. There was almost no change in whether reports and assignments were presented by faculty members, and it was found that more than 90% imposed reports and assignments. However, an increasing percentage of students were aware that feedback on these assignments and reports has not been given in 2021 as much as in 2020. It should also be noted that about half of the students felt that the amount of assignments was large in both 2020 and 2021.

From the analysis of the free description column, the positive outcome of distance learning in 2021 was that the lessons were ingenious and easy to understand. However, the "lesson method itself" received harsh comments and the students felt that the methodology was not devised well and it lacked intonation.

From the above analysis, it can be said that the distance learning process at the university was able to prepare both the students and the faculty to learn and teach in a remote manner and was able to achieve its objectives to some extent. However, since there was no backup system for teachers not adept at teaching through distance learning, it was left to the efforts of individual teachers, further limiting the scope of sharing lesson practice with other faculty members. The point that it has been closed remains as an issue.